



第87号
平成20年2月

子育て施設課
電話 0823-25-3144

【自家中毒症】

自家中毒症は、周期性嘔吐症またはアセトン血性嘔吐症と同義語です。今後、周期性嘔吐症候群という名称に統一し、偏頭痛の一型と位置づけるべきという考え方が主流となっています。

《原因は》

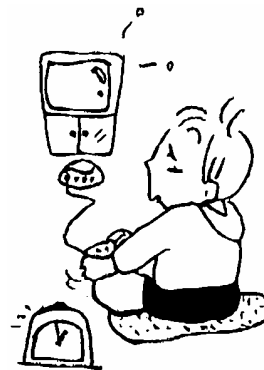
原因はよく分かっていませんが、感情の高ぶりなどの刺激が脳の一部を興奮させて起こると考えられています。同時に脂肪代謝が亢進するため、血液や尿の中にケトン体（脂肪の分解により肝臓で作られ、血液中に放出される物質）が増加します。

引き金となる要因としては、感染、過食、精神的緊張、睡眠不足、環境の変化などが考えられています。

過食



夜更かし・睡眠不足



《症状は》

1. 2歳頃から見られ始め、10歳頃には見られなくなる小児特有の疾患です。特に6歳以下のやせた男児に多いとされています。
2. 病気になる前には「疲れ」や、それに伴う「食欲不振」が見られることが多いです。
3. 急にぐったりして、吐き気、嘔吐のほかに頭痛や腹痛がみられます。
4. 嘔吐するとケトン口臭（りんごがすえたような独特な臭い）がします。
5. 早朝に発病することが多いです。
6. 嘔吐や脱水がひどいと、意識障害や興奮、傾眠（意識の消失してゆく、睡眠に似た状態）が見られます。
7. 低血糖が時々みられます。

《 嘔吐の特徴は 》

1. 飲食をするとすぐ吐きます。
2. 1～3日繰り返す嘔吐が続きます。
3. ときに胆汁が混じった黄色液を吐きます。
4. 嘔吐の原因となるその他の疾患と区別することが重要です。



嘔吐

《 家庭での対処は 》

1. 嘔吐が軽いときは、吐かない程度の水分摂取を行う。そのためには、少量ずつ頻回に飲ませることが大切です。
2. 静かな場所で安静と睡眠をとらせ、目覚めたら、吐き気の程度を確認しながら水分を与え、半日してから野菜スープや半固形物（おかゆやうどん）を少しずつ与えます。
3. 十分な睡眠をとらせましょう。
4. 低血糖を防ぐために、スポーツ飲料などで糖分や塩分の補給をしましょう。

《 医師の診察は 》

なるべく早く小児科医の診察を受け、その指示にしたがうことです。

脱水が強いことが多いうえ、からだの中の電解質（塩類）のバランスが崩れているので、吐き気止めの薬や輸液（点滴）などを行います。

脱水や嘔吐がひどいときは入院を必要とします。



点滴

《 再発防止は 》

1. 規則正しい生活習慣、特に良質の睡眠をとらせましょう。
2. 疲労を蓄積させないようにしましょう。
3. できるだけ静かな生活が大切です。
4. ビデオやテレビ、テレビゲームばかりの生活は避けましょう。
5. 子どもに刺激が大きい行事である遠足や旅行、発表会の後には、軽い食事と早めの就寝が重要です。



子どもが嘔吐したとき、熱も下痢もなく前日に何か興奮したことがわかっていたら、大人はおおげさに騒がないことです。まわりでおおげさにして、子どもに依頼心をおこさせ、自分で立ち上がる気力をなくさせる環境はよくありません。

自家中毒症は脱水さえ起こさなければ恐くナイ！